

令和6年度地域連携薬局等認定取得のための研修会にかかる意見結果

標記研修会において実施したグループワーク「認定取得にかかる懸案事項やその解決策等」において参加者から出た意見は下記のとおりでした。なお、同様の意見は集約してとりまとめています。

認定基準	認定基準に対する懸案事項	解決策や参考となる取組など
医療機関への情報提供（月平均30回以上）	情報提供する内容や記載方法を理解していなかった。	勉強会などで各薬局の情報提供内容や記載内容を共有していくとハードルが下がる。勉強会や横のつながりで情報交換をする。
	情報提供（トレーシングレポート作成）にあたり、患者の同意が取れるか不安。	患者自身の安全安心な薬物療法のための情報提供であることを丁寧に説明し、患者さんとの信頼関係を構築する。
	どこまでの内容を提供して良いか判断が難しい。患者によっては伝えてほしくないこともあり、情報提供により関係性が悪くなることを懸念する。	情報提供内容を患者とも共有し、患者の理解を得る。
	薬局から情報提供（トレーシングレポート送付）しても、医師の反応が分からない。薬局からの一方通行になっているのではないかと感じる。	医療機関によっては、FAX送付状に「返信不要」「カルテに記載」「確認しました」等のチェック欄が設けられ、返信をいただける医療機関もある。このような取り組みが広がると薬局のモチベーションもあがる。
	月平均30回以上の要件を満たすのが難しい（情報提供の回数をどのように増やしていくか）。	緊急性を要さないもの（吸入指導の報告書、在宅訪問の報告書、次回一包化の要望等）は電話から文書での情報提供に変更していく。
		小児であれば、飲みやすい剤形（シロップ、粉薬等）の提案・相談していく。
		外来患者のフォローアップの件数を増やしていく。 ・吸入指導後の手技の確認 ・眼科（緑内障）患者の併用薬の確認 ・便秘薬の服用状況（頻度）の確認 等
		在宅訪問（訪問薬剤管理指導、居宅療養管理指導）件数を増やしていけば、報告回数も増えていく。
		薬局内のミーティング等を利用して、職員（薬剤師）1人1人の情報提供に対する意識を高めていく。
		系列薬局がある場合は、情報提供した内容などを勉強会等で共有する。
送付先の診療所（医師の顔）を知らないため送付するのを躊躇することがある。	処方医と薬局との関係性もあるため、医療関係者同士が顔の見える関係性を構築する。	
門前（近接）の診療所の医師なので疑義照会で完結してしまう。また、文書よりも電話の方が早いため、電話で済ませてしまうことがある。	緊急性を要さないものは文書での情報提供に変えていく。	
情報の質と量を両方増やしていくのが困難。時間を確保するのが難しい。	情報提供のフォーマットを作成しておけば、提供内容の整理や時間短縮にもつながる。	

	<p>相手がどういった情報を求めているかが分からない。</p>	<p>情報提供内容に患者に対する薬学的考察を入れる。</p> <p>ケアマネジャーや介護関係施設団体と共同で研修会を開催し、相手が求めている情報を聞き出し、ニーズに応じた情報を提供していく。</p> <p>ケアマネジャーや訪問看護師との連携が重要であり、薬局から訪問看護ステーション等に挨拶に行く。</p>
<p>地域ケア会議・サービス担当者・退院時カンファレンス等参加（年1回以上）</p>	<p>患者の入院時、退院時の情報が入りにくい。</p>	<p>普段から情報提供している医療機関や介護関係施設であれば情報が入りやすいのではないかと。</p>
	<p>地域ケア会議について、どこで実施されているのか、また、どういった内容の会議か理解できていない。</p>	<p>各地域包括ケアセンター主催での地域ケア会議もあるので、市町情報を検索してみる。</p> <p>各地域で実施している多職種の勉強会に参加し、各職種の業務内容を確認・理解する。</p>
	<p>市町によってどの会議を地域ケア会議として開催されているのかが不明。</p>	<p>市町により開催状況が異なるため、地域支援体制加算を算定している近隣薬局に確認をするなど地域で情報を統一する。</p>
	<p>サービス担当者会議に呼んでいただけないことがある。</p>	<p>声がかかれば断ることなく参加していく。</p> <p>薬局からケアマネジャーや病院の退院支援部門等に働きかけていく。</p> <p>居宅療養患者のかかりつけの場合はサービス担当者会議に呼んでももらえることもある。普段からケアマネジャーとの連絡を密にし、コミュニケーションを図る。</p>
	<p>退院時カンファレンスに呼んでももらえない。</p>	<p>病院の入退院支援加算の算定と、薬局における退院時共同指導料の算定について、正しい加算の算定についてを病院担当者と情報を共有し、共通認識を持つ。</p>
	<p>退院時カンファレンスに声をかけていただいても日時関係で参加できないことがある。</p>	<p>オンラインで参加させてもらえないか確認する（現地参加よりも負担が少ない）。</p>
	<p>（全体）会議に呼んでいただけない。</p>	<p>お薬手帳を活用して、各会議に呼んでいただくよう働きかける。</p>